

報道各位

気候変動対応新素材「SPACECOOL」を漁船に初導入 ～宇宙に熱を逃し魚艙を暑熱から守る～

ニチモウとSPACECOOL(株)は、漁獲物の安定した運搬が困難になりつつあるという漁業が抱える猛暑課題を解決するために、宇宙に熱を逃がし冷却できる放射冷却素材「SPACECOOL」を漁業で初めて導入したことをお知らせいたします。千葉県船籍のまき網漁船「きんせい丸」や「伊東丸」を皮切りに、千葉県内では既に導入が進んでおります。

■気候変動が漁業に及ぼす影響

一般的に漁船には、貯氷艙（ちょひょうそう）という氷を保管している空間と、魚艙（ぎょそう）という捕獲した魚を貯氷艙から移した氷と共に鮮度高く港に運ぶために保管する空間が備わっております。昨今の気候変動による猛暑の影響で貯氷艙内の氷が溶ける速度が上がっており、氷を計画通り使用することが困難な状況になりつつあることが、漁業者の懸念材料の一つとなっております。



まき網漁船「きんせい丸」

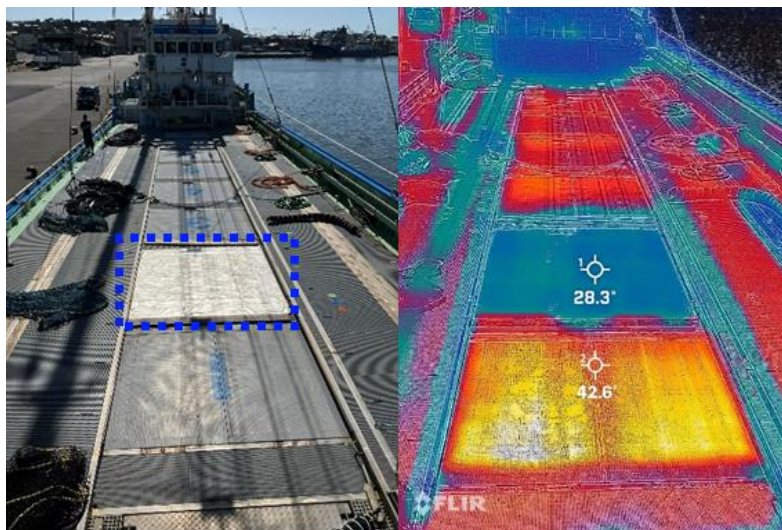


「きんせい丸」の貯氷艙

■氷が溶けにくくなり、余計な業務から解放され漁に集中できるように

放射冷却素材「SPACECOOL」（以下、「本素材」）は、直射日光下において宇宙に熱を逃がすことで、外気温より温度低下させることができる新素材となります。この度、本素材の販売店の1社であり、漁網・漁具の研究開発など海洋技術にノウハウを持つ当社が千葉県船籍のまき網漁船「きんせい丸」や「伊東丸」に本素材を初めて導入し、貯氷艙の蓋を覆ったところ、従来の保冷シートで覆ったときと比較し貯氷艙内が約 3℃低下したことを確認できました。これにより、漁業者は氷を経済的かつ計画的に使用でき、氷の世話をする必要がなくなったことで大漁時においても漁獲物の鮮度や帰港タイミングを気にすることなく、漁に注力することができるようになりました。

既に千葉県の銚子地区や片貝地区では「きんせい丸」「伊東丸」の好結果を受け、貯氷艙への本素材の導入が進んでおり、今後、本素材の漁業への適用拡大が期待されます。



写真左：青い点線部が SPACECOOL で覆った貯氷艙

写真右：SPACECOOL で覆った貯氷艙とそうでない貯氷艙のサーモカメラ比較

SPACECOOL で覆った貯氷艙は 14℃以上表面温度が下がっている

撮影時の外気温 25.7℃

※「SPACECOOL」は登録商標です。

■魚艙への本素材の導入に関するお問い合わせはこちら

ニチモウ(株) 海洋事業本部 海洋営業部 Tel:03-3458-4081

お問い合わせページ：<https://www.nichimo.co.jp/contact/>

今後ともニチモウグループは環境に配慮した持続可能な漁具資材の供給を進め『浜から食卓までを網羅し繋ぐ』を合言葉に、ステーキホルダーのみなさまの豊かで健康な生活づくりに貢献できる企業を目指してまいります。